

ECAN ヨリヨリ ニュースレター



次世代を生きる
こどもたちのために

会員紹介 山田 笙子さん
アマゾン植林ツアー

NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki (ECAN)

<http://www.npo-ecan.org/>

チングは **ウォッチング!**

・ながさきホテルの会

・NPO 法人 green bird 長崎チーム

イーキャンリレーインタビュー

本田 圭助 さん

FREE!!
vol.

7



いい人、いい自然、いい長崎

環境カウンセリング協会長崎は美しい長崎の創造に貢献したいと願っています

動機づけや具体的な目標が必要

（NPOを動かす原動力

本田圭助さん



1934年 口之津町（現 南島原市）生まれ
1952年 長崎県立長崎西高等学校卒
1956年 九州工業大学機械科卒
1956年 三菱造船（株）入社
1985年 三菱重工本社 火力プラント技術部長
1988年 三菱設計（株）社長就任
1997年 （有）マツオアンドパートナー
技術士事務所開設

——三菱時代、いろいろな発明や特許を取られてご活躍されたと伺っておりますが、具体的にどのようなお仕事をされていたのですか？

三菱時代は主に火力発電所向けボイラーの開発・設計に携わっていました。

実は、入社して最初の三年間は、ラグビー中心でした。入社四年目で花園球場での社会人大会に出場の夢も果たせ、ちょうどその頃、結婚をしたのですが、そのあたりから、ボイラーの開発・設計に興味がでてきました。

とはいえ、若干のブランクがあるので、人が嫌がる仕事を二つ引き受けざるを得ませんでした。

一つは、製紙産業関係の回収ボイラーの計画・設計です。

パルプ会社や製紙会社で木材をパルプにする際、アルカリ性の薬剤を使うのですが、その際出る廃液の中には、環境に悪いアルカリ性無機物や有機物が含まれます。これを処理して薬剤と高温の熱エネルギーを回収する回収ボイラーの計画・設計を担当しました。二つ目は製鉄産業関係の高炉ガスボイラーです。

製鉄所において、溶鉱炉で鉄鉱石から鉄を作る際、製造過程で低カロリーな排ガスが出るのですが、これは一酸化炭素が主成分で環境に悪く、燃やしても高温のエネルギーが得られないというやっかいなもののため、高効率のボイラーの設計が難しく、三菱は当時、国内でも二番手、三番手という状況でした。

これをいかにコンパクト・高効率にして、且つ発生蒸気を高温、高圧化するかということで、当時の設計常識を

超えた伝熱面の配置を考案して、特許をとりました。その結果、最新鋭の高炉ガスボイラーを実現することに成功して、日本の製鉄産業界のエネルギー合理化及び大気の汚染防止に貢献しました。更に改善を重ね、国内はもちろん、その分野では世界でもアメリカを抜き、トップメーカーになりました。

——どちらのお仕事も効率化、低コスト化だけでなく環境に対する安全性にも貢献された素晴らしい功績ですね。

ボイラーの設計などで多くの特許をとられたようですが、その際、会社からなにか、報償のようなものはあるものなのですか？

はい、会社からは若干の特許譲渡金をいただきました。また平成17年度の「長崎新聞文化賞」で、ボイラーなどの発明や特許を評価していただきました。

その際の受賞には、三菱重工退職後のイーキャン設立とその初期運営、長崎県日独産業交流の世話、および、長崎県で最初のISO14001・EAS21環境マネジメントの指導など環境アドバイザーとしての活動なども含まれます。

——三菱重工のあと長菱設計や（有）マツオアンドパートナーズ技術士事務所を立ち上げられていますが、ここではどういった内容のお仕事をされたのですか？

長菱設計では、三菱重工の製品である火力プラント機器、産業機械の設計、更には宇宙衛星の姿勢制御器、水中探査艇などの特殊機器の設計もやっています。この水中探査艇は湾岸戦争終了後の水雷除去でかなり活躍したと聞いています。

(有) マツオアンドパートナーズは環境マネジメント関係の仕事をするために始めた会社です。平成4年に設立し、平成9年に技術士資格をとり技術士事務所としました。

— 現在、長崎大学に通われているそうですね？大学ではどのような研究をされているのですか？

二年半前から長崎大学の後期博士課程で学んでいます。1992年にサステナビリティの概念が提示されてからサステナビリティディベロップメントの必要性を感じてきました。また、その実現のためには**地方自治体が大きな役割を持つ**と思います。

大学で取り組んでいるのは自治体の総合計画において、環境、経済、社会という政策の三つの柱と絡めて、うまくしくみをつくれれば、サステナビリティディベロップメントとマッチングできるのではないかとという研究です。単位はわりにすぐとれたのですが、その後、基礎的な社会学的知識の必要性を痛感しましたね。

なにより、新しい概念を論理正しく文書化していくという学者の世界で必要な手法と、今までやってきたような技術的思いつきやひらめきがある程度の仮定を立てながら実現化していく技術者の世界の手法との違いに苦労しています。

— イーキャンには設立当初から関わっていらっしやいますね？

設立時から四年間理事長を務めました。現在は顧問という立場で関わっています。

平成12年の設立当初からすると、理事や会員の入れ替わりはあっても、基本

理念は全く変わっていませんね。

中でも、**設立当時から私が重要視しているのが、環境教育です**。大きく分けて、子供の教育と、一般市民、特に事業者に向けての教育の二つなのですが、事業者に向けての取り組みはISO14001の取得支援やセミナー・講演会などの開催などが中心となりました。

子供の教育に関して、具体的には会員と長崎大学学生の協力で創造により「三次元紙芝居」を製作し、キャラバン隊を構成して県下の小学校、町役場、市民団体などを回り子供のための環境教育を行いました。

最初に、「しずくの旅」という題名で、県職員の矢野さん、森さん学生の栗田君、松江さん、今は亡き増田さんなどが力を合わせてかなり大がかりな立体的紙芝居を作りました。

これは、私が視察に行ったドイツで、音楽をとりいれた人形劇を子供たちへの環境教育に活用しているのを知り、提案したものです。始めて披露した吉井町での反応も上々でしたよ。

— 今後のイーキャン、また、長崎市に期待することは？

イーキャンに関しては、今年度から県の地球温暖化防止推進センターを他の団体に引き継いだこともあり、NPOとして何をなすべきか一時的に迷っている時期ではないかと思っています。**ある意味で、原点に戻ったともいえると思います**。

NPOは営利目的の団体ではないので、執行部と会員の間に強制力はありません。

執行部メンバーの中で、仕事やテーマを見つけ、会員のモチベーションを上げ、束ねていく人が必要になってきます。

それぞれの能力は高くても、企画を募るだけではだめで、公募への応募など、動機づけや具体的な目標が必要だと思っています。まずは、たとえ半額でもいいからお金をどこから引き出すかということです。やはり、それがNPOを動かす原動力になると思います。

理事に若い人も入ってきているので、期待しています。

これからの長崎市に期待することは、**港を活かした街づくりと、斜面市街地を住みやすく自然を活かした場所にする**ということですね。

長崎市はこれまでも街中の川や港の浄化や下水処理には尽力してきたと思いますが、たとえば、港で釣りが楽しめる位にきれいになれば、街の発展にもつながっていくと思います。

斜面市街地はデメリットばかりが話題になりがちですが、ライン川支流にあるミュールハイム市の川辺の斜面地では、三階建て四階建ての建物が点在し、市街と自然が共存し、非常に魅力的な住宅地となっています。

斜面地の将来に関して、若者が共感できるような、具体的に明確なビジョンを示すことができれば、新たな産業が生まれ、雇用、定住へと結びついていくと思います。

直面している現実的な問題として、斜面の老人世帯の暮らしにくさの問題、空き地・空き家問題などありますが、**逆に、発想を変えた街づくりを提案するチャンスともいえるかもしれません**。

イーキャンで、その将来ビジョン作りのアイディアをみんなに出してもらおうのいいと思いますね。

お話を伺うにつれ、日本だけでなく、世界の技術の進歩に貢献されたすごい方だと分かってきてちゃんと記事にまとめられるか不安になりましたが、普通なかなか知り得ない産業技術の発明や特許のお話を、素人の私にもわかるようにお話していただき大変勉強になりました。／聞き手 佐藤 恵

ながさきホタルの会

ホタルとつき合って

忘れもしない。昭和57年7月23日。あのおそろしい長崎大水害。伊良林小学校児童3名、父兄7名合わせて10名の尊い生命が失われた。その慰霊のため「中島川にホタルを飛ばそう」と、とても大きく大きなスローガンを掲げて、翌年58年2月に「伊良林小学校ホタルの会」が誕生した。

ホタルを飛ばすことは、川に清流をとり戻し、豊かな自然の川を守ることに、もう一つは、ホタルを飼育することにより、小さな生き物の生命、人の生命の尊さを子ども達に知ってほしい、そして優しい思いやりの心を育むという親の思いであった。

今日のように情報が豊富でない時代、何とか北九州の南ヶ丘小学校のホタル飼育を知り、全面的な指導をいただいた。

タネホタルを採り、産卵させ、ふ化させ、幼虫の飼育、秋台風の静まった頃川への放流をする。そのくり返しを毎年続け、災害地お手洗川のホタル復活に時間がかかった。子ども達と一緒に暑い日も、寒い日も川に出かけ、川二ナ取りを続けた。その事が私にとって慰霊そのものであった。10年もの長い月日を経て、やっと校区内のお手洗川の復活を成し遂げた。

水害後の河川は三面張りの川と様変わりし、ホタルの飛ぶような川ではなかった。その時思ったのが「ホタルを飛ばすことは出来るがホタルの飛べる環境を考えていきたい。もう少し水辺環境を考えていくべきだ」との思いであった。長崎市全体の河川の様子を!!「この思いで市内のホタル発生地の人々、ホタルに思っている人等に声をかけ、市のネットワークを作り、平成10年2月「ながさきホタルの会」の立ち上げとなった。それから12年地道な活動を続け、特に2ヶ月に1回の各地河川の清掃では多くのことを学んだ。河川はゴミ捨て場ではない、豊かな水の流れに人々は心を癒し、そこに住む人の歴史を作る大きなフィールドである。

ボランティア作業には限度がある。山を、川を、町をゴミのない街にすることは、1人1人の心掛けと、行政との協力が必要である。ゴミ社会に変化した今の生活を、みんなで考え行動していくことが求められている。

今年1月、県のホタルネットワークを構築出来た。長年の夢であり、喜びも大きい。「長崎県ホタルの会」スタートだ。長崎県の豊かな自然、とくに吉岐、対馬、五島の地元の人達と、そこを流れる川をいかに大切にしていくか、これからの課題である。

私達ホタルの会が、ホタルを守ることにはきれいな川の流れが必要であり、その川や水を守っていくには、森に木を植えないければならない。そのような循環型社会を考える時、ホタルを一つのターゲットとして、私たちの生活環境をよりよいものにするよう、これからもホタルと向き合っていこうと思っている。

文／ながさきホタルの会 富工妙子



写真上：「ツシマヒメボタル」
写真中：「中島川の掃除の様子」
写真下：「彼岸花とアキマドボタル」

NPO 法人 green bird 長崎チーム



green bird とは、「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した原宿表参道発信の参加型ボランティアプロジェクト。「ゴミやタバコをポイ捨てしない。」と宣言すれば、誰もが green bird のメンバーです。

主な活動は、「街のそうじ」。でもこれは強制じゃありません。「街を汚すことはカッコ悪いことだ。」という気持ちを持つだけでいいのです。個人をはじめ、ショップスタッフや企業・団体など、プロモーションの輪は原宿表参道のみならず全国各地、そして海を越え海外へと、どんどん広がっています。合言葉は“KEEP CLEAN, KEEP GREEN.”。自分たちが住む街をもっとキレイで、もっとカッコイイ街にするために。ひとりでも多くの参加を、お待ちしております。

活動内容

①街のおそうじ活動

全国各地にて、定例のおそうじ活動を企画し、若者たちのボランティア参加を呼びかけています。

②「ゴミのポイ捨てがカッコ悪いぜ！」PR 活動

各種メディア掲載・イベント協力などを通じて、たくさんの人たちと出会い、理念や活動を PR しています。

③コラボレーション活動

green bird の活動に賛同していただいた企業・団体のご協力のもと、地域貢献や環境啓発に関する活動を企画・運営しています。また、団体の運営に必要な活動資金や物品提供など、さまざまなカタチでのご協力をお願いしています。



長崎チーム

活動日：毎週木曜日 20:00～(1 時間半程度)
集合場所：長崎市鍛冶屋町 たちばな信用金庫様前
※雨天・祝日はお休みです。

平成 21 年度長崎チームの、べ参加人数は 1397 名！
リーダー ごうまなみを中心にコラボレーションを行い、
楽しく精力的に活動しています。

HP:<http://www.greenbird.jp>



自転車再生委員会

こんにちは。自転車再生委員会代表 前田晴郎です。今回は自転車再生委員会の活動紹介をさせていただきます。自転車再生委員会は、2004年に長崎大学内に年間200台近く放置してある自転車を何とかしたいという気持ちから、イーキャンの元で発足しました。それから、長崎大学の放置自転車を回収・修理し、新たな利用者に販売するといった活動を行っています。また、修理に關しては長崎大学内に係なく、長崎市民に對しても行っています。しかし、長崎市内で回収した自転車はイーキャン会員の長崎三共有機(株)の一部を借りて保管しているため、長崎大学から車で1時間かけて修理に行つて、長崎からまた移動手段が車しかないため、活動できず、人数が限られるなどのデメリットが大き目立っていました。そこで、長崎大学のサークルとして認定してもらふことを決め、今年7月に「ちやり再生法研究会」という名目でサークルとして登録することになりました。しかし、できたばかりのサークルで、活動場所や自転車の保管場所など、まだまだ解決しなければならぬ問題がいっぱいあるため、長崎大学との話し合いをこれからどんな行つてきたと考えています。また、昨年から佐賀大学に自転車修理サークル「ちやりさ」が発足し、そこは大学とうまく協定できているので、「ちやりさ」との交流を深め、長崎大学でも同じように活動していけたらいいと考えています。現在「ちやり再生法研究会」として活動している部員は男子4名・女子3名の計7名です。今はまだ部員も少なく小規模ですが、今後長崎大学内から活動の幅を広げて佐賀大学のような市内・県内、そして日本中に活動の幅を伸ばすことができればいいと考えています。また、まだ夢は大きく持ちたいですが、今はまだまだ出だしなものでしょうかという活動を作つて、後輩へ受け継いでもらえるような活動をしたいと思っています。これから応援よろしくお



山田 笙子さん (株)ヤマックス 代表取締役社長



写真右の方も新会員・安藤道子さん。

ECAN
会員紹介
No.8



大学内の放置自転車



放置自転車を修理する様子

長崎三共有機(株)の協力のもと、放置自転車を運び出す様子



この日、作業をした部員たち
(右から2番目が代表の前田くん)

私は、特別に環境に関する活動をしている訳ではありませんが、環境問題に大変関心があります。1月18日から1月27日まで、「アマゾン植林ツアー」10日間の旅に出かけました。旅に出る切っ掛けは、長坂優さんの講演を聞いたことです。長坂氏は1965年東京農業大学を卒業して日本政府の募集する移民としてアマゾンに移住され、現在に至っていらっしゃいます。長坂氏のアマゾンでの原始林を開墾された、筆舌には言い表すことが出来ない苦労話に引き込まれてしまいました。長坂氏は開墾した土地は、「全て自分の土地になる」を夢見て頑張られました。しかし、ある時木を伐採してしまつて良いのであろうかとふと考えられました。地球環境に大きなミスをしてしまった事に気がつかれました。アマゾンの木々は地球の空気、アマゾンから流れ出す水は、大切な資源である。伐採したままでは、子供達の時代に地球は空気も水も汚染されてしまうのではないのでしょうか?と思われ、これではいけない。日本の人々に木を植えるお手伝いをお願いして、地球環境保持に協力して頂く事になりました。講演をして自分の空気、自分が飲む水はアマゾンに3本の木を植えることで補われると、呼びかけられました。私は友人を誘つてベレンという所で植林をしました。アマゾンは日本の人々が、思っている大蛇、ワニ、ピラニアのうようよいる所ではありませんでした。アマゾン川は名古屋から東京までの川幅(360km)があり、小鳥達の樂園で、海のように広大でした。

一人一人が自分の生活のみを想わず、次の世代に生きる子供達の環境をいつも頭に入れて暮らす事こそが、大切なことだと思っています。

文/山田 笙子

イベントレポート

環境カウンセリング協会長崎／
エコアクション 21 地域事務局ながさきの活動報告

1 6月環境月間街頭キャンペーンへの出展

6月12日(土)、浜町ベルナード観光通りにて開催された「環境月間 街頭キャンペーン」において、環境カウンセリング協会長崎もブース出展を行い、団体の紹介や平成 21 年度に実施した漂流漂着ゴミ清掃の写真やフラッグの展示、エコアクション 21 の認証登録に関する質問・相談コーナー、そして、ばってんキャンドルナイト実行委員会と一緒にリユースキャンドルづくりを行いました。



リユースキャンドルづくり



エコアクション 21
質問・相談のコーナー



漂流漂着ゴミのフラッグ展示

6月19日(土)、三菱重工記念会館にて環境カウンセリング協会長崎の平成 22 年度通常総会を開催しました。会員総数 107 名(6月19日時点)のうち、出席者 29 名、委任状提出者 32 名により総会は成立し、平成 21 年度活動報告、収支決算報告、平成 22 年度活動方針、会計収支予算等の議案が無事に承認されました。今年度は役員の改選の時期でもあり、時田副理事長と吉田理事が任期満了に伴い退任し、浅田要一郎さん(長崎県環境部)、糸山景大さん(長崎大学名誉教授)、富工妙子さん(ながさきホテルの会)、前田晴郎さん(長崎大学工学部)の多彩な 4 名が新しく理事に加わりました。今年度は委託事業が減り、財政的に厳しい年になりますが、フレッシュな顔ぶれで心機一転頑張っていこうと思いますので、ご協力の程よろしく願います。総会が終わった後は、恒例の懇親会で会員どうしの親睦を深め、楽しみました。

2 平成 22 年度通常総会



通常総会の様子

3 「地球温暖化対策に向けた市民ネットワーク」 キックオフ宣言とコア会議

6月12日(土)、「環境月間街頭キャンペーン」において、「地球温暖化対策に向けた市民ネットワーク」のキックオフ宣言を行いました。これは、地球温暖化を防止するために様々な環境団体の活動がつながり、このネットワークがより多くの市民をつなげ、長崎市全体に広がっていくことを願ってスタートしました。7月23日(金)に開催した「市民ネットワーク」の 4 回目のコアメンバー会議では、NPO 法人環境市民(京都)の代表である松本育生氏に「環境先進国ドイツのまちづくり」についてご講演いただき、その後低炭素社会づくりに向けた長崎市の将来ビジョン共有のためのワークショップを行いました。(長崎市市民協働推進室委託事業)



市民ネットワーク キックオフ宣言



コア会議ワークショップの発表の様子



コア会議ワークショップの様子



コア会議松本氏の講演



山田 笙子 さん(株ヤマックス 代表取締役社長)
次世代に輝く未来の環境を残したいと、熱望して入会しました。



山田 憲一郎 さん
西日本三菱重工業を退職し、4 月より個人会員として ECAN の監事を継続することになりました。EA21 地域事務局の補佐と判定委員、ボランティアで二胡の演奏もしています。宜しくお願いします。



粟屋 順子さん
(薬剤師国際ソロプチミスト長崎会員)
虫の声が聞こえない、蜻蛉の姿が少ない、雑木林が、田畑が消えていく。ここにストップをかけることが私の願いです。細やかでも行動を起こしたいと思います。



溝口 健治 さん
はじめまして。リタイア組の 1 人で通信大学生です。「環境」・「ECO」に関心があり、自然・山が大好き人間です。

Information

エコアクション 21 自治体イニシャティブプログラム (長崎市) 構築講座
 日時: 11月19日(金) 13:30~16:30
 場所: 県民ボランティア活動支援センター (長崎市出島町 2-11)
 対象: 長崎市内の一般企業・団体
 お問い合わせ: エコアクション地域事務局ながさき TEL 095-893-5900

日本学生グローバルサミット 2010 (漂流漂着ゴミの清掃)
 日時: 平成 22 年 10 月 9 日 (土) ~ 11 日 (月・祝) 2泊3日
 場所: 長崎県対馬市

エコアクション 21 普及講座
 日時: 平成 22 年 10 月 8 日 (金) 13:30~16:30
 場所: 西そのぎ商工会 本所 (西彼杵郡時津町浦郷 428-14)
 主催: 西そのぎ商工会
 お問い合わせ: 西そのぎ商工会 TEL 095-882-2240

エコアクション 21 自治体イニシャティブプログラム (佐世保市)
 日時: 説明会 平成 22 年 10 月 7 日 (木) 13:30~16:30
 構築講座 平成 22 年 10 月 ~ 23 年 1 月 3 回開催予定
 場所: 佐世保市環境部
 対象: 佐世保市内の一般企業・団体
 お問い合わせ: エコアクション地域事務局ながさき TEL 095-893-5900

三次元環境紙芝居メンバー募集

イーキャン (ECAN) では、子どもたちへの環境教育として、紙芝居と人形劇が一体となった聴衆参加型の環境紙芝居を実施してきました。紙芝居づくりから上演まで、活動に楽しく参加してくれるメンバーを募集します。
 ecan@npo-ecan.org まづご連絡ください。



会員募集中！環境についてともに考え活動しませんか？

環境カウンセリング協会長崎は、中立な立場から市民、事業者、学術機関及び行政のパートナーシップの形成を図り、それぞれの環境への取組みを支援することを目的に設立されました。
 循環型社会を根付かせ、人と自然が共に生きる心豊かな長崎を作るために、企業、団体、学術機関、行政そして市民としてそれぞれの立場からのご支援とご協力をお願い致します。

会員の種類	入会金	年会費
個人会員	1,000 円	3,000 円
学生会員	-	1,000 円
企業会員	-	10,000 円
団体会員	-	30,000 円
賛助会員	-	一口 (50,000 円) 以上

現在の会員数 (平成 22 年 10 月現在)

個人会員 70 名、企業会員 29 社、法人会員 4 団体、学生会員 10 名

お申し込み・問い合わせ先
 環境カウンセリング協会長崎

TEL (095) 818-3305

E-Mail ecan@npo-ecan.org

— 理事

宮原和明 (長崎総合科学大学名誉教授)、菅洋一 (㈱エコシステム)、早瀬隆司 (長崎大学教授)、武政剛弘 (長崎大学教授)、川口孝範 (㈱T・N・C・エスコ)、石橋康弘 (長崎総合科学大学教授)、山田知代 (ばってんキャンドルナイト実行委員会)、空閑次男 (エコアクション 21 地域事務局ながさき)、安永憲一 (長崎県中小企業団体中央会)、新宮一広 (㈱環境衛生科学研究所)、重橋裕明 (長崎三共有機㈱)、糸山景大 (長崎大学名誉教授)、浅田要一郎 (長崎県環境部)、富工妙子 (ながさきホテルの会)、前田晴郎 (自転車再生委員会)

<編集後記>先日、沖縄県の石垣島へ旅行し、キラキラ輝く海を泳いできました。岸から少し離れると景色が一変して、色とりどりの魚やサンゴが目の前いっぱいになり、「わあっ！！☆☆！！！」と大歓声をあげてしまいました (海水を飲みこんじゃうので、心の中で笑)。自然の美しさはどれだけ眺めても、何度見ても感動しますよね。温暖化の影響を受けてサンゴの白化が問題になっていますが、サンゴに限らず美しい四季や自然をいつまでも感じていられるよう、できることを 1 つ 1 つ実行していこうと改めて思いました。10 月の 3 連休には対馬で漂流漂着ゴミの清掃活動を行いますので、多くの皆さんに参加していただきたいです！／塩竈 綾 (ECAN)

編集部 宮原和明 早瀬隆司 塩竈綾 (ECAN) 監修／山崎加代子 取材／佐藤恵 制作・デザイン／Makentosh

本誌のバックナンバーが ECAN ホームページより閲覧できるようになりました。→

ECAN Newsletter ヨリヨリ vol.7(2010 年 10 月)
 ■発行:NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
 Environmental Counseling Association of Nagasaki(ECAN)
 〒850-0036 長崎市五島町 3-3-206
 TEL(095)818-3305 FAX(095)826-3693
 業務時間: 平日 10:00~17:00 定休日: 土日祝日
 http://www.npo-ecan.org/

■印刷 総合印刷 コマツ印刷

Copyright 2010 Environmental Counseling Association of Nagasaki All rights reserved
 本誌の無断複製・複製・転載を禁じます

ECAN LOGO MARK
 長崎島の形+葉っぱをイメージした緑
 右手は「力」を意味する赤。(ガッツポーズ)
 左手は美しい水を意味する水色
 回りの円は、碧い地球

